NPO法人棚田ネットワーク会報誌　第102号

棚田に吹く風

2016
秋
Autumn
季　刊

2 特集
第22回全国棚田（千枚田）サミット佐渡
「U30（アンダーサーティー）棚田サミット」レポート

5 フォトエッセイ
えひめ棚田紀行

6 棚田・里山からのたより
棚田の景観
鹿児島県鹿児島市郡山町八重地区

8 棚ガール
ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

9 棚田博士は今日も行く
魚沼丘陵中の消滅の危機にある集落
新潟県小千谷市外之沢

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report

第22回全国棚田（千枚田）サミット in 佐渡

U30 棚田サミット

【 アンダーサーティー 棚田サミット 】

レポート

平成28年7月14・15日に新潟県佐渡市で離島初の「全国棚田（千枚田）サミット」が開催されました。棚田サミットは、「全国棚田（千枚田）連絡協議会」が主催する棚田界のビッグイベント。平成7年に高知県梼原町で第1回が開催されて以来、毎年棚田のある市町村がホストになり、今年で22回目を迎えました。
そんな歴史ある棚田サミットで、今年初めて画期的な試みがありました。それは、「U30棚田サミット」と銘打たれた全国の若手棚田関係者を集めた討論会。果たしてどんな内容だったのでしょうか。

棚田の未来を語るために若者に来て欲しい！

佐渡棚田サミットのキーパーソンである佐渡棚田協議会会長の大石惣一郎氏から棚田ネットワークに「初物好きな佐渡で何か今までにない企画をして欲しい」と連絡があったのが、昨年の秋。黄金色まっただ中の岩首棚田へスタッフ2名が駆けつけ、佐渡の地域おこし協力隊の棚田班を含めて、サミットに提案する企画会議が行われました。

大石会長の「とにかく棚田の未来を担う若者が集まるサミットにしたい」という思いのもと、サッカーの「U23」などにちなんで、棚田の次世代代表チームのようなものを作って討論したいということになりました。

しかし「U20」では到底集まらないし、「U40」では若者と言えない。そこで20代～40代までの若手対象ということで、中をとって「U30」という名称に決定。全国の地域おこし協力隊の棚田班、若手の棚田農家、自治体関係者、保全団体のスタッフなどに声を掛けることになり、サミット初の「若手会議」実現に向けて走りだしました。

facebookでの事前自己紹介

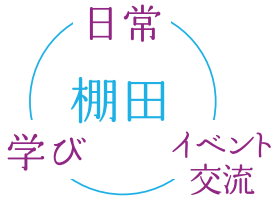
企画を中心になって進めたのが佐渡の地域おこし協力隊の新田聡子さんと岩崎貴大さん（現在は任期終了）。討論会のテーマも「棚田の未来を具体化する」に決まり、心配されていた参加者も事前に30名の申し込みがありました。ただ、当日の討論時間は1時間半。これでは自己紹介だけで終わってしまうということで、予めfacebookで事前交流をしてしまおうと「U30」の参加者グループを作って、自己紹介と「棚田がこんな場所であってもいいと思う」というアイデアを書き込んでもらいました。

棚田の保全活動に関わる若者は、ほぼ例外なくSNSを活用し情報発信を行っているので、事前交流のアイデアは、形式的で挨拶的になりがちな分科会に一石を投じる画期的な試みだったのではないでしょうか。

参加者のみなさんに聞いた 棚田がこんな場所であってもいいと思う

●ロボットのいる棚田 ●人材教育の場であっても良いと思う ●多彩なオプション制でどんな人でもヒットする体験 ●棚田でMICA ●棚田で米粉パン焼き ●棚田でコンサート ●雪山棚田で城攻め雪合戦 ●棚田は過度に期待されない場所 ●棚田は稼げる場所で良い ●棚田は心と心の交流の場所でもいいと思う ●私は棚田にロリータを呼びたい ●様々な人が出会い学び合う場所 ●棚田が舞台であってもいいと思う ●棚田で結婚式ができる場 ●棚田が「みんなの心のふるさと」 ●棚田で双六 ●皆が自然に集まる場所 ●棚田で鬼ごっこ ●冬期間での棚田のイベント ●都市部の人が身近に感じられる場所 ●太陽が輝いたり星空の中のコンサート ●傾斜を利用スーパーロングエキセントリックな流しそうめん ●セスナからダイビングして棚田へ着地したい ●半自動化で楽な棚田 ●現場で作業している人のテンションが上がる棚田

左：発言中の岡山県美作市上山棚田からの参加者／中：満員になったU30会場／右：正面左、コメンテーターの藻谷浩介氏。右、座長の高桑智雄氏。両サイド、佐渡市地域おこし協力隊員



アイスブレイクならぬ〝ライスブレイク〟で討論開始！

車座形式の会場には、見学者も合わせると50名程が集まりました。基調講演を終えたばかりの里山資本主義でおなじみの藻谷浩介氏をコメンテーターに迎え、「アイスブレイク」ならぬ、北片辺の棚田米ミニおむすびを食べる「ライスブレイク」で討論会スタート。座長を務めるNPO法人棚田ネットワークの高桑智雄事務局長が、予めfacebook上の意見をまとめ、「日常の場」「学びの場」「イベント・交流の場」という視点があり、この3つの場に意見をマッピングしながら討論したい、との提案がありました。

参加者の多くが現役の地域おこし協力隊、やはり棚田を「イベント・交流の場」として活用していきたいという意見が圧倒的に多く、自治体関係者や中間支援組織のスタッフなども、地域への入り口としてイベントを積極的に行って欲しいとの意見がありました。

一方の協力隊の卒業生で地域に残る若者や農業従事者は、棚田の継続のために人材育成や体験などの「学びの場」として優先すべきとの意見も出ました。また、少数ながら棚田はあくまでお米作りの「日常の場」、つまり「過度に期待されない場所」という意見も出されました。

結果的に、現在の棚田保全において「日常」「学び」「イベント交流」という3つの視点は、どれを疎かにしても成立しない。棚田の未来を担う若者が、棚田で積極的に活動して行くには、地域の特性に合った3つのバランスを考えることが大切だという結論が導き出され、これはそのまま佐渡棚田サミットの共同宣言に提案、そして採用されました。

棚田サミット22回目にしてはじめての棚田の若手会議。様々な課題も残しつつ、若者らしい遊び心とチャレンジ精神が表現され、これからの棚田を担う若者が集まって繋がれる場が提供されたことはとても意義があったと思います。形や名称が変わっても、次のサミットにも引き継がれることが切に期待されます。

（会報編集部）

《 共同宣言に採用されたU30棚田サミットの提案 》

私たち棚田の未来を担う若手は、棚田を「日常」「学び」「イベント交流」の3つの場と捉え、地域の特性に合った3つのバランスを考えながら、自らの考えた「棚田の未来予想図」の実現に取り組みます。

写真提供：佐渡市

えひめ 棚田紀行

写真・文 河野 豊

泉谷棚田

愛媛県喜多郡内子町

標高500メートル、耕作面積4ヘクタール、川を挟んで二つの急峻な斜面に大小さまざまな田んぼが95枚広がっている。

平成11年「日本の棚田百選」に選定され、平成16年には「棚田オーナー制度」を導入。自治会、行政の活動によって今なお一枚も荒廃することなく維持存続されている。年間通じていろいろな行事が行われ、中でも「シャクナゲ祭り」「自然浴ツアー」「案山子作り」「地元小学生の農業体験」など交流活動も盛んにおこなわれている。

過疎化や高齢化は深刻で、日常的に作業されている農家はわずか3戸。どの家にも後継者がなく高齢者が中心となって過酷な作業が続けられている。田植え前から収穫されるまでの行き届いた「草刈り作業」には脱帽です。

次世代へどう存続させていくか・・・

新たな取り組みが模索されており「やれることは、やらなければ・・・」新たな一歩が始まっています。

河野 豊 こうの ゆたか

1947年　愛媛県西予市野村町生まれ。
2010年～2015年「棚田風景」「棚田に生きる」「棚田守り人」をテーマにした写真展11回開催（愛媛県下にて）。愛媛県下の棚田を中心に取材しながら保存活動及び活性化事業に関わっている。
2010年『南伊予の地域遺産 棚田 ―写しだされた原風景―』写真集出版

地域住民と行政の協力で守る棚田の景観

鹿児島県鹿児島市郡山町八重地区

上：棚田オーナーの田植え体験／下左：水の張られた棚田／下右：8月の棚田

八重地区の棚田について

八重地区の棚田は、鹿児島市の北西部、八重山の裾野、標高約400㍍に位置し、先人の知恵と努力により築かれ、代々大切に受け継がれてきた昔ながらの美しい石積みの棚田が、面積12・4㌶、約240枚にわたって山腹の急傾斜に広がっています。

棚田周辺は、緑豊かな八重山山地に囲まれており、遠景には市街地や桜島と錦江湾を望むことができます。季節ごとに、桜や菜の花、レンゲ、スイセンなどの色とりどりの花々が咲き誇り、春には、田植え前の水が張られた情景、夏には、稲が生育した緑の草原の情景、秋には、稲穂が実り一面黄金色になった情景、冬には、積雪の白と石積の黒が織りなす情景など、四季折々で様々な表情を持つ、自然豊かで奥行きと広がりのある魅力的な田園風景が形成されています。

棚田を守るための地域の取組み

平成14年度から、地域住民が一体となって、棚田の保全を目的とした棚田保全委員会（約30戸）が設立され、一般市民が参加する農業体験イベントを続ける中で、地域の高齢化が深刻化し、今後の農地保全が厳しくなってきたことから、新たに平成19年度より、棚田オーナー制度を活用した保全活動も実施しています。

オーナー制度とは、都市部の住民を中心に、棚田で米作りを希望するオーナーを募集し、地域の農家による栽培指導の下、田植えから稲刈り、脱穀等の体験活動を通して、都市と農村との交流を行っています。オーナー料金は一グループ当たり1万円（グループ・家族で5人まで）で、収穫された米は、籾で35㌔ずつお渡ししています。

農業体験活動等の内容

八重地区の棚田では、オーナー制度や一般市民による稲作体験やソバの栽培体験等が行われており、農村環境の保全や地域住民と参加者との交流が図られています。

都市と農村の交流及び棚田の保全活動に対する県や市の助成金を活用し、6月田植え、7月田の草取り、9月ソバ植え、10月稲刈り、11月ソバ刈り、12月収穫祭と、年間を通して体験活動を活発に行っています。

収穫祭では、イベントで植えたソバを使ったソバ打ちや餅つき体験などを行い、調理した料理は、八重の棚田米で作ったおにぎりや猪鍋、漬物、お餅などとともに参加者に振る舞われます。多くの参加者で賑わう収穫祭が終わると、八重の棚田に冬が訪れます。

棚田を盛り上げる新しい取り組み

八重山の中腹に、地域の住民にとって大切な命の水となり、同時に棚田を潤し豊かな実りをもたらしてきた甲突池があり、5月には甲突池水神まつりが実施されますが、27年度で30回目を迎えるにあたり「八重の棚田と竹とうろうの夕べ」というイベントが始まりました。

この日は棚田や甲突池に7000本の竹とうろうがともされ、イベントの最後には花火も打ち上げられ、その壮大な景色は地元だけではなく、鹿児島市内各地からも多くの人が駆けつけ、今後の八重の棚田を盛り上げる一大イベントとなっています。

現在、この地区では約30世帯が棚田の保全活動に取り組んでいますが、シカやイノシシによる有害鳥獣被害の増加、高齢化や後継者不足が課題となっており、今後とも、棚田保全委員会と行政が協力体制を取りながら、体験活動等を通じた、美しい棚田の景観を守る活動を支援していきたいと考えています。

（鹿児島市農政総務課郡山農林事務所）

棚田へのアクセス

【公共交通】 JR鹿児島中央駅バス停よりJR九州バスの「北薩線宮之城行」バスに乗車、約50分の「入来峠」バス停下車。その後、甲突池方面に約2km徒歩。（火、木、土曜日は町内巡回バス運行。「入来峠」バス停よりバスに乗車、約10分の「八重上」下車すぐ。）

【自動車】 九州自動車道「鹿児島北インター」を降り、国道3号線を北に進み、小山田町（交差点）を右折して 国道328号線 に入り、入来峠を左折し、約2km直進、「八重棚田館駐車場」。

お問い合わせ

〒891-1192
鹿児島県鹿児島市郡山町141番地
郡山農林事務所
Tel. 099-298-4861
〔URL〕
http://kago-greent.jp/html/kooriyama/kooriyama_yae-tanada.html

左：竹とうろうの夕べ／右：遠く山裾まで続く掛け干し

棚ガール Tana Girl

Vol.7

棚田の虜になった乙女、通称「棚ガール」そんな女性を紹介するコーナーです!!

兵庫県神崎郡市川町 井上 瑞紀(24歳)

100年後、200年後にはもう地元はないかもしれない…。

ちょうど2年前、東京にいた私は、仕事で田舎の現状について触れたり、友人と廃村を訪れたりして、田舎の未来について考える機会がありました。そんなときに地元で暮らす祖母から届いた野菜と手紙。「元気でやっていますか。採れた野菜を送ります。」祖母からの手紙で、ふと地元のことが頭に浮かびました。小さな偶然が重なり、「いつか地元に帰って地元のために働きたい」という新たな夢ができた瞬間でした。

転機が訪れます。社会人3年目の春、祖父の病がきっかけとなり、「これは、地元で夢を叶えろということなのかも」と思い、会社を辞めて地元で暮らすことにしました。帰ってきてすぐ、地元で人と自然と地域をつなぐ活動をしているNPO法人棚田LOVER' sで働きはじめました。四六時中パソコンと向かい合い、3食コンビニ飯を食べる生活を送っていた東京時代とは180度変わって、緑に囲まれ、家で採れた野菜でつくる栄養満点のご飯を3食きちんと食べる生活に心が満たされています。その反面、田舎暮らしは楽なことばかりではないこともわかってきました。久しぶりに一緒に暮らす家族とは、心配し合い、時には口げんかをしながら楽しく暮らしています。(笑)

模索しながら過ごしている日々ですが、やはり目標は「地元に若者を増やすこと」。そのために、まずは棚田LOVER' sで様々なことを学び、土に触れる楽しさ、自分の手の届く範囲での暮らし、そんな人間として当たり前のことを未来の若者たちに伝えていけるような人間になりたいと思っています。まだまだ未熟者ですが、精いっぱい進んで参ります!

❖ブログ「今日も、せか暮らし」
http://kyoumo-sekagurashi.hatenablog.com/

ヨネちゃんの ニッポン全国 棚田オーナー制度紹介 第九回

第九回は高知県の梼原町にある「神在居(かんざいこ)の棚田」をご紹介するわ!!

全国で一番最初に棚田オーナー制度を始めたこの棚田、実は坂本龍馬脱藩の道の近くにあって、観光客にも大人気なのよ!

棚田オーナーになるための年会費は40010円(しまんと!)
参加必須の作業は田植えのみだけれど、年間を通して作業や行事が盛りだくさんよ!収穫時には白米30kg頂ける他にも、年に2回産直品を送付してくれるという特典も…!本年度の申込は残念ながら終了してしまったけれど、次は来年の2月に募集開始よ!チェックしてみてね!
http://www.tanadaowner.com/shikoku/kouchi_kanzaiko.html

※棚田オーナー募集地域紹介サイト⇒ 棚田百貨堂 検索

棚田博士は今日もイク！

中島峰広の全国棚田行脚

魚沼丘陵中の消滅の危機にある集落

新潟県小千谷市外之沢

新潟県小千谷市は越後平野と頸城・魚沼丘陵の接点にあり、信濃川左岸の段丘上に中心市街地がある。外之沢（そのさわ）は、その南10キロメートル、信濃川右岸、魚沼丘陵の標高200メートル付近にある集落。頸城丘陵と同様豪雪と隣の集落大崩の地名からも判るように地辺り地として知られている。集落はかつて34戸を数えたが、現在は3戸を残すのみ。そのうちの2戸は市街地に住む子供の家に同居、夏の期間だけ外之沢で暮らす寡婦の世帯。高齢の町内会長夫妻1戸が常住の世帯。耕作者は通い耕作を含めて6名、中山間直接支払制度も第1期の5年間の取り組みで止め、消滅の危機にある集落といえる。

2015年10月中旬、棚田ネットワークの理事高野光世さんの案内で外之沢を訪ねた。集落までのルートは、JRの十日町駅東口（JR線側）を出て、駅前通りを直進、本町通りの交差点を左折、国道117号を北上する。市街地を抜け、信濃川に合流する飛渡川、貝ノ川を渡ると、やがて信濃川の河岸に沿う道となる。楢沢川の橋を渡ってすぐに右折、県道を東へ、丘陵上の集落池ノ又、田代、小土山などを経て、標高190～250メートルに家屋が散在する外ノ沢集落に到着する。

峠の手前から見下ろす一幅の絵

棚田は、集落が位置する標高190メートルから集落背後の330メートルまでの傾斜7分の1の南向き斜面に分布、その面積約10ヘクタール前後。しかしその半分近くは放棄され、雑草に覆われている。集落内の堂の前には一枚が0・5～0・8アールほどの棚田が16枚、幅が狭く細長い形をして行儀よく数段並んでいる。土坡の高さが1メートル前後、すでに来年に向けて畦塗機を用い、その作業を終えていた。

中心になる棚田は、集落の背後、上外ノ沢にある。集落から町に下るには、ここまで来た県道を引き返すか、集落裏手の農道になっている小径を上り、桜峰（さくらずんね）の峠（標高370メートル）を越えてJRの駅がある岩沢へ下るかのいずれかである。その峠の手前を左折した高所から見下ろすと、上外ノ沢の優れた景

中島 峰広（なかしま みねひろ）（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

観の棚田を一望できる。杉林に囲まれた棚田の半分近くを占める上段部分は放棄されているが、それ以下の部分はほぼ耕作されている。

耕作されている部分は、北西から南東にかけて対角線状に曲がりくねった農道が走り、農道の東側に2列、西側に1列、すなわち東、中央、西の3列に分かれる。東の上段部分は、さらに2列に分かれ、2～3アールの長方形の棚田がそれぞれ7段そろって並んでいる。法面は土坡、高さが2～3メートルはあり、草刈の大変さが偲ばれる。下段部分は放棄地を混じえた数枚の棚田が散在してみられる。中央は、土坡の高さが3メートル前後、3アールほどの形のそろった棚田が10数段並び、ひときわ目立ち棚田全体の景観をひきたてている。西は、四角に近い比較的大きい棚田が十数枚、秩序なく横たわり、調和を乱す存在。全体としては、一幅の絵として収まっているという感じの棚田である。

通い耕作により維持される棚田

当日、集落の集会所には現在も外ノ沢で棚田の耕作を続けている6名のうち、3人の方が待っていた。皆さん本来棚田を意味する山田の姓を名乗り、ご当地に相応しい方々。

山田恒雄さんは80歳、集落に常住する唯一の男性、他に替わる人がいない万年町内会長である。77歳の奥さんと二人暮らし、大工の長男、会社員の次男はともに小千谷の市街地で世帯を持ち、長女は会社員と結婚、十日町の市街地に住んでいる。中学卒業後、すぐに就農、もとは小作農であったため、自作地3反5畝21歩（約36アール）からの出発であった。冬は出稼ぎに出掛けたが、3年でやめてしまった。21歳で結婚、その後は父親とともに米作り一筋に励み、離農して集落を出て行く人から少しずつ棚田を買い足し、今では3タンクを所有する専業農家である。現在は自作地のほか、作らなくなった農家の棚田1・5タンクを10アール当たり60キロの小作料で引き受け、合計4・5タンクを耕作している。これだけの面積を耕作できるのも、市街地に住む子供たちが農繁期には戻ってきて手伝うからだ。機械類はキャタピラー付きのトラクター35馬力2台、田植機乗用5条植え2台、コンバイン3条刈1台を所有、機械類の操作は主として子供たちが担ってくれるそうだ。とにかく農業が好きで、平年でも一冬7回の雪掘り（雪降ろしのこと）が必要なことも苦にならず、たとえ1戸になっても外ノ沢から出る気はないという気概が感じられる。

山田勇喜平さんは81歳、奥さんと大工の長男一家と暮らす重世代世帯、現在は市内の土川に家を構え、外ノ沢へ通い耕作を続けている。中学卒業後、恒雄さんと同様就農し、農作業の合間には土木作業などに従事してきた。トラクター23馬力、田植機乗用4条植え、コンバイン2条刈などの機械類を所有、85アールの棚田を耕作している。勿論大工の長男も農繁期には機械を操作し手伝うそうだ。

山田公博さんは75歳、68歳の奥

1・2：米づくり体験の田んぼ／3：通い耕作だが農業機械は揃っている／4：岩沢駅前の農家レストラン

さんと二人だけの世帯、現在は小千谷の市街地に住み、外ノ沢に通い耕作をしている。祖父が村会議員や村の収入役を務めたほどの名家、農地改革が行われるまでは水田6㌶を所有する地主であった。しかし、父は役場の職員になり、自ら農作業を行うことがなかったので、改革後は70㌃の水田しか残らなかった。その水田も父が兵役を除隊になるほど病弱であったため、叔父が代わりに耕作した。中学卒業後、およそ10年間父親にかわり叔父とともに農作業に従う日を送った。20歳台半ばになって、ようやく専業農家として独立した。1973年、31歳の時十日町のタクシー会社に就職、60歳の定年まで勤め、その間兼業農家として外ノ沢の棚田を守ってきた。

現在はトラクター23馬力、田植機乗用4条植え、コンバイン2条刈を所有、40㌃の棚田を耕作している。そのうちの10㌃、16枚が堂の前にあり、岩沢駅前で農家レストランを経営するNPO法人アチコタネーゼ（方言、「元気かい」の意）により田植え・稲刈りの体験イベントを行う場として利用されている。

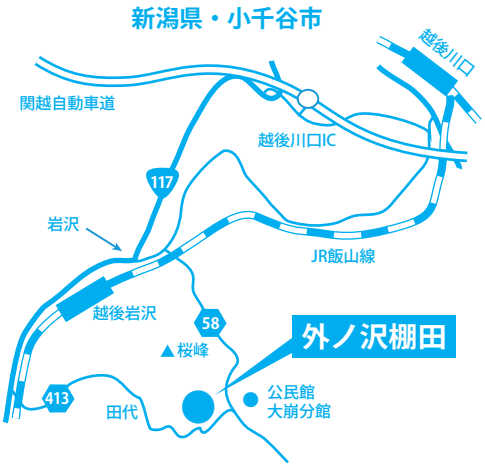
田作りから生育期間の管理一切を公博さんが引き受け、収穫された米すべてを60㌔2万円で買い取って貰っている。体験には20～30人が参加し、淋しい集落を賑やかにしているそうだ。

残りは年齢が50歳、76歳、81歳の3名の方たちで市内の市街地などに居住、通い耕作をしている。このように、外ノ沢の棚田は恒雄さんを除き、集落から出て通い耕作をする人や市街地に住む子供たちによって支えられている。なかでも、公博さんは、長男が愛知県半田市で製粉機を製作する工場主の家に婿として入ったことで、後継者を失ったにもかかわらず、かつて外ノ沢の棚田半分を所有する地主であったプライドから、集落が消えるのは耐え難いのであろう。寡婦の2戸が離村してしまえば、外ノ沢は恒雄さん1戸の集落になる。行政は1戸になれば集落として認めないと云っているそうで、そうならない手だてを離村した者も含めみんなで考える会を早急に開きたいと決意を新たにされていた。

湧き水を溜めて水源に利用

左から山田勇喜平さん、山田公博さん、山田恒雄さん

棚田へのアクセス



【公共交通】JR飯山線・越後岩沢駅前からタクシーにて約12分（要予約・小千谷タクシー）

【自 動 車】関越自動車道・越後川口ICより国道117号線を南下し、岩沢交差点を左折して県道58号線に入る。ICより10㎞約15分

会員の声

北信州からエールを送ります！

長野県中野市 荻原 和弘

ピーー、ガガガガ‥‥。

20年前、棚田ネットワーク(当時は棚田支援市民ネットワーク)が産声を上げた時、インターネットが一般にはまだ普及する前夜、電話回線にモデムを繋いで文字情報のみのパソコン通信が主流でありました。某フォーラムで棚田ネットの事を知り、1996年春に入会しました。

前号で紹介されていた香山さんとも知り合い、八坂の棚田にも数度足を運び田植えやら草刈りをしたことや、前の事務所の新・浪漫亭の一階の居酒屋で中島先生、事務局の高野さん、会員の皆さんと酒を酌み交わした事が懐かしく思い出されます。

我が家は北信州の山奥の農家で周りは全て棚田でした。半世紀ほど前になりますが小学生の頃春には「田植え休み」、秋には「稲刈り休み」が有り、子供の頃から米作りを手伝いました。一家総出で田植え、稲刈りをしたものですが、40年前に現在の地に移転して集落も無くなり、その棚田も全て山野になってしまいました。年に数度訪れて山菜など採りに行くのですがそこから見える志賀高原の山並みは昔のままです、これもまた懐かしい思い出です。

時は流れ、漸くインターネットが一般に普及し始めた頃です。企業も個人もこぞってホームページを作るようになり、私も1997年に見よう見まねで作りました。そんな縁で一時期棚田ネットのホームページ作りにも参加させて頂きましたが、いかんせん素人の作りには限界を感じていた頃、事務局に現在の事務局長の高桑さんが入って現在の素晴らしいホームページを作って頂きました。

私の近況ですが、今も「ブナシメジ」の栽培をしています。田んぼは家の前に1反歩ほど自家用米です。今年も収穫が無事終わりました。お天道様に感謝です。

年を取るにつけ「ずく」(信州の方言)が無くなり最近は棚田作業への参加も減ってしまいましたが、棚田を始め里山の田畑さえも、高齢化や獣害などにより地元民だけでは守れなくなっているのが実情です。都市の皆様のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

最後になりますが「棚田ネットワーク」の更なるご発展を遠く北信州より応援しています。

会員のひろば

会員の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！ご要望、感想やご質問でもOK！
(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて)
〒一六〇－〇〇二三 東京都新宿区西新宿七－一八－一六
トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛
メールでも受付けています ⇨ hiroba@tanada.or.jp

会員さんの Best Shot!

会員のみなさんのベストショット募集!!

みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます！送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風　ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇨ hiroba@tanada.or.jp

佐渡・大野亀

東京都渋谷区　石川 公康

今回の佐渡の旅は相川から島を半周して両津港に。途中の二つ亀付近の橋上からは大野亀と海沿いの棚田が一望できます。

会員レポート

古民家レストラン「ごんべい」開店

千葉県鴨川市
大山千枚田保存会

保存会の念願であった農家レストランがいよいよ開店しました。とはいっても、もともと棚田倶楽部で営業していた棚田カフェをごんべいに移転し、喫茶、軽食部門の開店です。開店するにあたっては、いろいろな思いがありました。　ＮＰＯが営業するレストランはどうあるべきかメニューはとにかくこだわってみました。私たちの財産はお米であり「長狭米」です。これをとにかくおいしく食べてもらうこと。また、地元の飲食店と競合しないこと。などなどいろいろ考えた末に、タンポポコーヒーをはじめとした飲み物と、もみ殻竈だきの長狭米のご飯と、長狭米の米麺を提供しています。

また、この地域は酪農発祥の地で牛乳食の発祥の地でもあります。昔から食べられてきた「チッコカタメターノ」の煮物の定食「嶺岡鍋定食」とそれをどんぶりにした「嶺岡ちっこ丼」それに長狭米を自家製麺した「千枚田肉みそ米めん」チッコカタメターノが入った「嶺岡ちっこ米めん」和風だしの「千枚田和風米めん」チッコカタメターノの煮物をパテに焼いたものをご飯で挟み込んだ「チッコライスバーガー」それにおなじみの「おにぎり定食」です。飲み物、「嶺岡チッコ丼」「ライスバーガー」はテイクアウトも応じています。棚田倶楽部のデッキで棚田を見ながらの食事もできます。

どれもこの辺にはない千枚田でなければ食べられないものになったと思っています。是非、お誘いあわせご来店の上、ご賞味いただきますようお待ちしています。

上：「ごんべい」外観／下左：千枚田和風米めん／
下右：チッコライスバーガー

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE

MOVIE

さとにきたらええやん

監督・撮影：重江良樹／音楽：SHINGO★西成／製作・配給：ノンデライコ／本編100分、2015年

上映中! 詳しくは公式HP内「劇場情報」で。
www.sato-eeyan.com

大阪西成にある学童保育の日常を記録したドキュメンタリー映画。西成と言えば言わずと知れた日雇い労働者の街。イメージからメッセージ性の強い重めの内容かと思いきや、子供たちのパワーと、それを見守る大人たちの温かい眼差し溢れる明るい作品です。様々な境遇にある人たちが、関わり合い、気に掛けあい、地域に関わりながら生きることの大切さをストレートに感じさせてくれる。監督自らもカメラを回す前からこの施設のスタッフとして関わっていて、映像の説得力もなかなかのもの。

MOVIE

クロスロード

©2015「クロスロード」製作委員会

製作：日本、フィリピン／監督：すずきじゅんいち／本編103分、2015年11月公開作品

DVD発売中
（4,700円＋税／COLOR／本編103分／片面2層）

カメラマンの助手になったものの、目標の見えない日々を過ごしていた沢田は、自分を変えようと青年海外協力隊に飛び込む。同僚と共にフィリピンの田舎に派遣されドジョウの養殖を順調に進めていくが帰国・・・それから8年後、震災後の東北に彼の姿があった・・・。

ポスターの背景にもなっているイフガオ族の棚田はとても立派で、映画をさらに印象強くしてくれています。

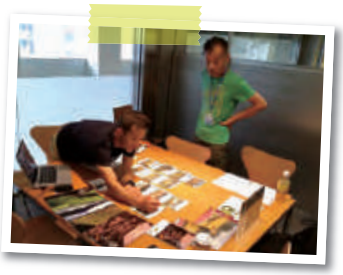
棚田ネットワークのかつどうノート

このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

今年も旧暦プロジェクト開始しました！

2016年9月12日 報告　高桑 智雄

5年目をむかえる「旧暦棚田ごよみ」の制作プロジェクトが今年も始まりました。第1回目のミーティングでは、写真担当の青柳健二さんにたくさんの候補写真を持ってきていただき、季節感、地域バランス、デザインバランスなど様々な要素を鑑みて、パズルのように選んでいく作業です。試行錯誤しながら、平成29年版は3年に一度の閏月がある年なので、閏皐月を含めた13枚の写真が無事決まりました。表紙には、初めての黄金色の棚田風景で、長野県飯山市福島新田の棚田になります。11月中旬の発売予定で、現在制作まっただ中です。ぜひお楽しみにして下さい！



『全国棚田ガイド(仮)』出版計画

報告　高野 光世

「全国の棚田を網羅して紹介する本」の出版企画が、ようやく本格的に動き出しました。元はといえば、棚田ネットワーク発足20周年を機に、これまで蓄積されてきた棚田データの集大成の本を作ろう、と始まった企画です。

有名な姨捨棚田や白米千枚田などを含む「日本の棚田百選」、県が独自に選んだ10選や20選、棚田ファンに教えてもらった「推薦したい棚田」などをもとに、現在約230箇所がリストアップされています。すべて詳しく紹介したいのはやまやまですが、予算の関係で頁数を絞らなければなりません。また、交流に積極的な地域もあれば「観光地ではありません」というところも、既にひっそりと役目を終えた棚田もあります。

写真や地図、保存会の現状、最新の交通情報なども再調査しながら、来秋の刊行を目指して頑張ります。乞うご期待＆ご協力！

スタッフのつ・ぶ・や・き

＜輪番制＞

今回のつぶやき人

事務局

Nishiguchi

この7月より棚田ネットワークに入会するとともに、ネットワーク事務局で週に2日ほど、ささやかながらお手伝いを始めさせて頂いております Nishiguchi と申します。

棚田ネットワークの「《都会の人が棚田を支える》を支援する」のコンセプトに魅かれて参加しています。「リタイア後田舎暮らし」や「週末農業」に漠然とした憧れを持ち続けること十数年。しかしながら、半世紀に及びジンセイの中で、都市生活しか経験がなく、棚田ネットワークの事務局のお手伝いをすることが、将来、どこか、ひとつ、自分がじっくり向き合える棚田と出会えること、そこで有効なサポートを実行できるようになるために、絶対に役にたつだろうというシタゴコロも携えての参加です。

さて、私は、まず「棚田のことを知らなくてはいけない」状態で、課題が盛りだくさんですが、早速、この3か月間に、たくさんの経験をさせていただき、とても楽しく(そして予想よりも少し忙しく)過ごしています。千葉県鴨川市代棚田の「稲刈り体験」、西伊豆松崎町石部棚田の「草刈り・草取り」と「稲刈り・ハサ掛け」への参加では、「人の手がはいった自然の美しさ」というものを実感するとともに、ご高齢の棚田のまもりびとの方々おひとりおひとりの厚い存在感と快活さに希望を感じました。また、都心においては、「棚田学会大会シンポジウム＆懇親会」や「良い食材を伝える会」の場での、軽やかでエネルギッシュな方々との歓談は、まさにネットワーク的交流の可能性を期待させてくれるものでした。

なお、ネットワークの棚田応援団をどんどん呼び込もうとする活動に関しては、自分の職務経験(事業会社における投資家向け広報や役所対応等)を生かして、何か企画できればと思っています。まずは、手始めに、コンパクトな「棚田問題を考えるためのファクトブック(データ集)」や「棚田問題現状説明資料」などの原稿案を作成します。

皆さま、どうぞ、よろしくお願いいたします。

千葉県鴨川市
川代棚田でお米づくり

棚田でのお米づくり体験「稲刈り」を実施

川代お米作り体験プログラムの稲刈りは8月28日に20名ほどの参加者で賑やかに行われた。あい次ぐ台風の接近で棚田はぬかるみが残り稲の倒伏も目立つ。当日は曇り空だったが天候に気を揉む一日だった。（上久保郁夫）

東京から千葉に転居してもうすぐ10年になるが、実は千葉での棚田作業は今回が初めて。現地参加の私は、新宿からのバス組と途中で合流し稲刈り体験に加わった。

小学生の頃より茂木町の棚田作業や生き物観察、都内でのイベントなどに参加していた息子は今回参加できなかったが、今では農大生となった。棚田ネットワークの皆さまには、本当に良く支えて頂き、小さな男の子だった我が子も「世の中のお役に立てる人になりたい」と日々勉学に励んでいる。実りの秋も間近であると願う。（齋藤　美香）

岐阜県恵那市
棚田ビオトープ プロジェクト

夏休み・こどもビオトープ観察会

「蒙き霧升降（ふかきりまと）う」というけれど、まだまだ暑い晴天の中、「夏休み・こどもビオトープ観察会」を８月21日に開催しました。参加者は計８名、うち子供は３名。トノサマガエル、サワガニなど、今年は捕獲種数も少なく生きものも（私も）夏バテでした。

「雷乃（かみなりすなわ）ち声を収む」。今年は台風が多く、９月22日に予定していた稲刈りは９月25日(日)に延期、４名の参加がありました。ここには上中下段の３枚の棚田があり、今回は中段の稲刈りをしました。上段は水が冷たいため、まだ稲が青く、また、下段はミソハギを中心に水辺の植物があります。人数も少ないことから、参加者に体験してもらうというより、企画者（私）自ら率先して稲刈りをしました。今年も保存会の方の協力を得て、ミニはさ掛けを作り、束にした稲を干しました。棚田カフェ「ペンペン草」ができ、ランチ営業を開始、おいしく頂きました。（相田　明）

静岡県松崎町
石部棚田で昔ながらの米づくり

２回目草刈り・草取りと稲刈り

8月20、21日に2回目の草刈り・草取り作業を行いました。参加者は高校生と小学生を含めた総勢8名で、真夏の太陽が照りつける中、雑草との格闘に汗を流しました。前回から1ヶ月半で、畦は草ぼうぼう、除草剤をお断りしているからなのか、コナギ、オモダカ、ヒエが繁殖しまくりで、今年は水が少ないこともあって、田に水が回り切らない状態になっていました。そして、10月1、2日の両日、曇天と濃霧の蒸し暑い中でしたが、総勢21名での稲刈りとハサ掛け作業を行いました。水不足と日照率の低さなど、今年は厳しい気候で、稲もまだ青さを残し、収穫量も例年より若干少なめでしたが無事新米が出来ました。11月6日に「新米を食べる会」を開催します!ぜひ今年の出来を味わいに来てください。（高桑 智雄）

使いづらい、だけど美しい！始めてみよう〝旧暦生活〟

今年も作りました！

平成二十九年 旧暦 棚田ごよみ

二十四節気七十二候の解説付！

月の満ち欠けでひと月を知り、太陽の動きで季節の移り変わりを感じていた「旧暦」での暮らし。
旧暦棚田ごよみは、四季折々の美しい棚田の風景とともに、暦で「季節感」を味わうことのできる旧暦カレンダーです。

壁掛けタイプ
A4（縦210×横297mm）　※開くとタテA3サイズ

¥1,200（税込）
5部セット ¥5,500（税込）

卓上タイプ
A5（縦210×横148mm）

¥1,200（税込）
5部セット ¥5,500（税込）

5部セットがお得！贈答用にどうぞ！

2タイプのセットもあります！　壁掛け・卓上 各1部セット ¥2,200（税込）

二十四節気七十二候雑節を表示

四季折々の棚田風景

新暦表示もあり！

月の満ち欠けイラスト入り！

注文サイトQRコード

ご購入は　TEL. 03-5386-4001 もしくは棚田ネットワークHPから
● お電話受付時間　13:00 ～ 17:00　※土日祝をのぞく

※このカレンダーは、旧暦の元日（平成29年は1月28日）から始まります。

棚田の応援団　わたしたちと〝棚田の応援団〟やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい！」という会員によって自主的に運営されているNPOです。
消えゆく美しい“棚田”をどのように保全していくことができるのでしょう？ 一緒に考えませんか？ ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員になると！
会報誌「棚田に吹く風」（年4回）やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト（イベント）への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費
○個人会員
維持会員　1口1万円（1口以上）
一般会員　4,000円
応援会員　3,000円
学生会員　2,000円

法人会員を募集しています！

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費
○法人会員
1口３万円（1口以上）

この上のスペース（ページ上1/2サイズ）は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。（詳細はお問い合わせください）

編集部から

特集でも扱った「U30棚田サミット」の冒頭、スタッフの地域おこし協力隊ーさんの発案で、アイスブレイクならぬ棚田米を一口食べるライスブレイクを企画しました。最初はウケ狙いのダジャレだったのですが、アイスブレイクは会議冒頭でゲームなどをして、参加者を和ませるために行います。そもそも「和」という字は、「禾本科（イネ科の古称）を口にする」と書きます。つまりお米を食べることそのものが「和む」「和する」という意味になるのです。だから、ライスブレイクは、まさにアイスブレイクだったのです！ぜひ緊張感漂う会議などでお試し下さい。ただウケ狙いでやるとスベリますのでご注意を（笑）

ホームページのここを見て！

棚田ネットのWebサイト リニューアルしました！

http://www.tanada.or.jp

棚田に吹く風
2016年 秋号 Vol.102

発行 NPO法人 棚田ネットワーク
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail：info@tanada.or.jp　URL：www.tanada.or.jp
郵便振替口座：00100-7-151565

［今回の表紙］川代棚田の稲刈り（千葉県鴨川市）　撮影者：上久保郁夫